

事務事業名	学校支援員・介助員配置事業	所属部	子ども政策局	所属課	子ども家庭支援課	
総合計画体系	政策名	〈IV〉ふるさとを学び育つまち〈教育・文化〉		所属G	子ども家庭支援G	
	施策名	〈26〉学校教育の充実		課長名	高橋知恵美	
	目的:対象	児童・生徒	意図	基礎基本(知・徳・体)の発達を促し、生き抜く力を身につける。	電話番号	0854-40-1067 (内線) 2261
	基本事業名	〈078〉困難さを抱える児童生徒への支援の充実		担当者名	山根史朗	
目的:対象	児童・生徒	意図	個に応じた教育・支援を受ける。	予算科目	会計: 款 大事業 大事業 0:1:5:0:0:3 業名 教育推進事業 項目 中事業 中事業 0:5:1:0:0:3 業名 学校支援員配置事業	

1 現状把握【DO】

(1) 事業概要

① 事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (H16 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)	特別な支援又は生徒指導上配慮の必要な園児児童生徒のため学校に支援員・介助員を配置する。 《介助員》特に配慮を要し介助が必要な園児児童生徒に対し介助員を配置し、校長等の指示のもと、健康管理、食事、排泄、移動、衣服の着脱などの日常生活や行動、動作について身体介護を行う。 《支援員》特に配慮を要し支援が必要な園児児童生徒に対し支援員を配置し、校長等の指示のもと、危険行為の防止・安全確保・健康管理・学習支援・情緒の安定等・個に応じた支援をする。

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	R2年度実績(R2年度に行った主な活動) 支援員・介助員を学校等に配置し、特別な支援又は生徒指導上配慮が必要な園児児童生徒の生活支援を行う。 配置人数 学校支援員31名 配置先 幼稚園1園 小学校13校 中学校2校	R3年度計画(R3年度に計画する主な活動) 前年度と同様。 配置人数 学校支援員28名 配置先 幼稚園2園 小学校10校 中学校2校			
	② 活動指標	単位	H30年度(実績)	R元年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(計画)
ア	支援員・介助員を配置した幼稚園、学校数	園・校	16	16	16	14
イ	支援員・介助員を配置した園児児童生徒数	人	201	143	199	209
ウ	支援員・介助員配置人数	人	31	29	31	28
エ						

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	H30年度(実績)	R元年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(計画)
	児童生徒 特別な支援を要する園児児童生徒	ア 園児児童生徒数	人	2,931	2,828	2,761	2,705
		イ 学校や園が支援員・介助員の配置を必要としている児童生徒数	人	201	143	199	209
		ウ					
	② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	H30年度(実績)	R元年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(計画)
学校生活を不安なく過ごす。 保護者が安心して園児児童生徒を送り出すことができる。 教員が学級全体を見渡しながらきめ細やかな指導ができる。	ア 全園児児童生徒数に占める学校が支援員・介助員の配置を必要としている児童生徒の割合	%	6.9	5.1	7.2	7.7	
	イ 学校が支援員・介助員の配置を必要としている児童生徒に占める支援員を配置した児童生徒の割合	%	100.0	100.0	100.0	100.0	
	ウ						

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (2年度決算)	② コストの推移	単位	H30年度(決算)	R元年度(決算)	R2年度(決算)	R3年度(計画)
報酬30,565千円 手当 2,856千円 費用弁償1,522千円	財源内訳	千円				
	国庫支出金	千円				
	県支出金	千円				
	地方債	千円	31,100	25,700		44,500
	その他	千円				
	一般財源	千円	62	2,310	34,943	96
	事業費計(A)	千円	31,162	28,010	34,943	44,596
	人件費	人	2	2	2	
	正規職員従事人数	人	2	2	2	
	延べ業務時間	時間	480	480	480	
	人件費計(B)	千円	2,079	2,035	2,020	
	トータルコスト(A)+(B)	千円	33,241	30,045	36,963	

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
・年々、配置を望む対象者が増加している。 ・発達障がい者支援のための法整備がなされた。 ・個々の状態に応じた対応をしたり、子どものよりよい生活や学習のために園・校外の人的資源を活用したりしようとする機運が高まった。	平成21年度から専門的見地による指導主事の配置	支援員の存在が保護者の間にも広がり、保護者から支援員の配置を求める声もある。

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結びついているか？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている *余地がある場合⇒	見直し余地があるとする理由
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である *余地がある場合⇒	
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である *余地がある場合⇒	
B 有効性	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？ <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がある <input type="checkbox"/> 向上余地がない 理由 研修会等の参加による支援員の対応力の向上	
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ <input type="checkbox"/> 影響無 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 理由 支援を要する子どもに対し支援ができない。学級経営の困難性の増加。保護者の学校に対する不信感の増大。	
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？ <input type="checkbox"/> 他に手段がある *ある場合⇒(具体的な手段や類似事業名) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない 理由 他に制度・事業がない	
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) <input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 理由 支援を要する園児児童生徒が増加しつつある一人一人に応じた、より細やかな支援が必要とされている	
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？正職員以外や外部委託ができないか？ <input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない 理由 特別な支援を要する園児児童生徒が増加しつつあること個々の特性に対応した支援が必要であること配置している支援員は、会計年度任用職員を採用している	
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正か？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である 理由 直接的な受益者は、支援を受ける園児児童生徒であるが、その支援によって他の子どもたちも安定した学校生活を送ることができるようになる。	
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果 A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり B 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	② 1次評価結果の総括(根拠と理由) 支援日数・時間の延長を求める声が多い

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input checked="" type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	② 改革・改善による期待成果 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td>●</td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table> <p style="font-size: small; margin-top: 10px;"> 廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。 </p>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上			●	維持			×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上			●																		
	維持			×																		
	低下		×	×																		
特別な支援を要する園児児童生徒は増加傾向にあり、個々の特性に対応した支援員の配置が必要である。																						